



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年1月31日

上場会社名 株式会社ホットマン 上場取引所 東
 コード番号 3190 URL <http://www.yg-hotman.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 伊藤 信幸
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役兼管理本部長 (氏名) 柳田 聡 TEL 022-243-5091
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	17,141	4.7	775	19.4	824	14.1	524	3.1
2022年3月期第3四半期	16,373	△2.8	648	△32.5	722	△28.9	508	△24.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	74.35	—
2022年3月期第3四半期	72.09	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	17,231	7,327	42.5	1,038.56
2022年3月期	15,464	6,917	44.7	980.48

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 7,327百万円 2022年3月期 6,917百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期（予想）				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,300	2.0	460	7.4	520	1.1	266	0.2	37.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	7,275,500株	2022年3月期	7,275,500株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	220,000株	2022年3月期	220,000株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	7,055,500株	2022年3月期3Q	7,055,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国の経済環境は、ウィズコロナの下で政府による各種政策の効果もあり社会経済活動の正常化が期待される中、物価や原材料、資源価格の高騰、金融資本市場の変動等の影響が懸念されており、先行きは不透明な状況が続いております。

当社におきましても、人流回復による持ち直しの動きが見られる一方、物価高騰による消費マインドの低下に加え、年々上昇する最低賃金に伴う人件費の増加、水道光熱費及び備品価格等の上昇により費用は増加傾向にあり、依然として厳しい状況が続いております。

そのような環境の中、会社方針に『熱意は力なり（熱意は人を動かす！自分が真剣に取り組む事が大切）』を掲げ、自ら熱意を持って接客や行動する事により、「売上総利益額の確保」と「節電を中心とした費用削減」を全社一丸となって取り組んで参りました。

2022年4月に宮城県仙台市太白区にシャトレゼ南仙台店、同年8月に福島県南相馬市にイエローハット原町店を道路の向かい側へ新築移転し、同建物2階に「ダイソー」の新規出店を行い、当第3四半期会計期間末の店舗数は、イエローハットが90店舗、TSUTAYAが9店舗、アップガレージが8店舗、カーセブンが3店舗、ダイソーが6店舗（前年同期比1店舗増）、宝くじ売場が5店舗、コメダ珈琲店が1店舗、シャトレゼが1店舗（前年同期比1店舗増）の合計123店舗（前年同期比2店舗増）となっております。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高は17,141百万円となり、前年同期比768百万円（前年同期比4.7%増）の増収となっております。経常利益につきましては824百万円となり、前年同期比101百万円（前年同期比14.1%増）の増益となりました。四半期純利益は524百万円となり、前年同期比15百万円（前年同期比3.1%増）の増益となりました。増収増益の要因は主として、イエローハット事業における度重なる値上げとそれに伴う駆け込み需要によりタイヤ関連の販売が好調に推移したこと及び新規事業であるシャトレゼの出店等により売上高が増加したことによるものとなっております。費用面においては、電気代を中心に費用は増加したものの、イエローハット事業において高粗利であるタイヤ及び車検の販売が好調に推移したことにより増益となっております。

セグメント別の業績は次の通りであります。

[イエローハット]

当社の主たる事業であるイエローハット事業におきましては、度重なる値上げとそれに伴う駆け込み需要によりタイヤ関連の販売が好調に推移したこと及び車検等カーメンテナンスの販売注力により粗利額が向上したこともあり、当第3四半期累計期間は好調に推移致しました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高13,331百万円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益（営業利益）は1,017百万円（前年同期比20.3%増）となっております。

[TSUTAYA]

TSUTAYA事業におきましては、7月以降ゲームを中心に回復基調にはあったものの4月からの累計では振るわず、レンタル部門についても低調に推移致しました。コミックレンタルの顧客リピート率向上で粗利率改善をはかるものの、書籍を中心に核となるタイトルの発売がなかったこともあり、当第3四半期累計期間は低調に推移致しました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高1,587百万円（前年同期比3.8%減）、セグメント損失（営業損失）は78百万円（前年同期は56百万円のセグメント損失（営業損失））となっております。

[アップガレージ]

アップガレージ事業におきましては、イエローハット事業同様の推移となりました。また、カー用品の買取については、中古車市場の活性化に伴い件数が増加したことにより、当第3四半期累計期間は好調に推移致しました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高861百万円（前年同期比10.8%増）、セグメント利益（営業利益）は84百万円（前年同期比39.2%増）となっております。

[その他]

その他の事業におきましては、2022年4月に宮城県仙台市太白区にシャトレゼ南仙台店、同年8月に福島県南相馬市にダイソー原町店を新規出店致しました。シャトレゼの新規出店等によりその他事業の全体売上高に貢献致しました。また、中古車市場は、コロナ禍による三密回避の移動手段及び新車の納期遅延により活性化していることもあり、カーセブン事業は好調に推移致しました。

コメダ事業、保険事業及び不動産賃貸事業は好調に推移致しました。

宝くじ事業は低調に推移致しました。

新規出店及びカーセブン仙台柳生店の移転により費用が増加し、セグメント利益（営業利益）については減益となっております。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高1,361百万円（前年同期比46.9%増）、セグメント利益

(営業利益)は82百万円(前年同期比4.0%減)となっております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は1,683百万円増加し、9,667百万円(前事業年度末7,984百万円)となっております。これは主に、現金及び預金が976百万円、売掛金が212百万円及び商品が529百万円増加したことによるものであります。

また、固定資産の残高は83百万円増加し、7,563百万円(前事業年度末7,479百万円)となっております。これは主に、投資その他の資産が282百万円減少したものの、土地の購入等により有形固定資産が367百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計残高は17,231百万円(前事業年度末15,464百万円)となっております。

② 負債

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は1,520百万円増加し、7,308百万円(前事業年度末5,787百万円)となっております。これは主に、買掛金が170百万円及び短期借入金が1,200百万円増加したことによるものであります。

また、当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は163百万円減少し、2,595百万円(前事業年度末2,758百万円)となっております。これは主に、退職給付引当金が68百万円増加したものの、長期借入金が229百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計残高は9,903百万円(前事業年度末8,546百万円)となっております。

③ 純資産

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は409百万円増加し、7,327百万円(前事業年度末6,917百万円)となっております。これは主に、四半期純利益を524百万円計上したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月10日の「2022年3月期 決算短信」で公表致しました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,354,317	2,330,860
売掛金	707,068	920,046
商品	5,394,179	5,923,448
貯蔵品	1,346	2,035
その他	527,481	491,486
流動資産合計	7,984,394	9,667,878
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,125,299	2,395,227
土地	2,117,777	2,222,961
その他（純額）	630,801	623,054
有形固定資産合計	4,873,878	5,241,242
無形固定資産	11,441	10,749
投資その他の資産	2,594,486	2,311,663
固定資産合計	7,479,806	7,563,655
資産合計	15,464,200	17,231,534
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,142,755	1,312,817
短期借入金	3,050,000	4,250,000
1年内返済予定の長期借入金	344,992	344,992
未払法人税等	147,656	219,205
賞与引当金	88,666	12,916
契約負債	414,751	416,087
その他	598,722	752,135
流動負債合計	5,787,543	7,308,154
固定負債		
長期借入金	826,676	596,681
退職給付引当金	1,496,356	1,564,551
役員退職慰労引当金	157,335	160,627
資産除去債務	172,566	175,107
その他	105,961	98,859
固定負債合計	2,758,894	2,595,826
負債合計	8,546,438	9,903,980
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,910,645	1,910,645
資本剰余金	500,645	500,645
利益剰余金	4,474,448	4,928,465
自己株式	△108,380	△108,380
株主資本合計	6,777,358	7,231,375
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	140,403	96,177
評価・換算差額等合計	140,403	96,177
純資産合計	6,917,762	7,327,553
負債純資産合計	15,464,200	17,231,534

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	16,373,246	17,141,847
売上原価	9,060,930	9,454,972
売上総利益	7,312,315	7,686,875
販売費及び一般管理費	6,663,442	6,911,863
営業利益	648,873	775,011
営業外収益		
受取配当金	17,230	12,037
受取手数料	17,558	14,516
産業廃棄物収入	12,933	13,760
その他	48,020	30,181
営業外収益合計	95,743	70,496
営業外費用		
支払利息	17,564	17,003
その他	4,412	4,131
営業外費用合計	21,976	21,135
経常利益	722,639	824,372
特別利益		
関係会社株式売却益	—	105,101
特別利益合計	—	105,101
特別損失		
固定資産除却損	21	3,169
関係会社株式評価損	—	59,160
貸倒損失	—	43,637
災害による損失	3,334	—
解体撤去費用	4,352	1,200
特別損失合計	7,708	107,167
税引前四半期純利益	714,930	822,307
法人税、住民税及び事業税	109,129	207,681
法人税等調整額	97,181	90,053
法人税等合計	206,311	297,735
四半期純利益	508,619	524,572

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益計 算書計上額 (注) 3
	イエロー ハット	TSUTAYA	アップ ガレージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	13,019,172	1,649,499	777,953	15,446,625	926,621	16,373,246	—	16,373,246
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	12,171	1,193	529	13,894	16,052	29,946	△29,946	—
計	13,031,344	1,650,692	778,483	15,460,520	942,673	16,403,193	△29,946	16,373,246
セグメント利益 又は損失(△)	846,100	△56,384	60,393	850,109	85,648	935,757	△286,884	648,873

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、コマダ事業及び保険収入等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△286,884千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益計 算書計上額 (注) 3
	イエロー ハット	TSUTAYA	アップ ガレージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	13,331,625	1,587,155	861,976	15,780,757	1,361,090	17,141,847	—	17,141,847
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	10,355	1,401	284	12,041	14,894	26,935	△26,935	—
計	13,341,980	1,588,557	862,261	15,792,798	1,375,984	17,168,783	△26,935	17,141,847
セグメント利益 又は損失(△)	1,017,660	△78,476	84,093	1,023,277	82,184	1,105,462	△330,450	775,011

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、コマダ事業、シャトレーゼ事業及び保険収入等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△330,450千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。